東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

ダウン症のある児童の知的機能と個人的プロフィールに関する検討：小学生段階6年間による縦断的分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): Down's syndrome, Childhood, Intellectual function, Individual profile, Longitudinal study 作成者: 山口, 遼, 橋本, 創一, 李, 受眞, 田中, 里実, 井上, 剛, 大伴, 潔 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173409

ダウン症のある児童の知的機能と個人内プロフィールに関する検討
── 小学生段階6年間による縦断的分析 ──

山口　遼*・橋本　創一**・李　受眞***・
田中　里実****・井上　剛*****・大伴　潔******

本研究は，児童期ダウン症児の知的機能の発達，個人内プロフィールの類型化とその変化の特徴を明らかにすることを目的とし，18名の田中ビネー知能検査Ⅴの結果を用いて縦断的研究を行った。その結果，児童期ダウン症児の知的機能は，緩やかに発達することが分かった。また「知覚運動」は相対的に良好な成績を示す知的カテゴリーであり，「文章理解・類推」「数概念」は相対的に低い成績を示す知的カテゴリーであると示唆された。第2・5学年の個人内プロフィールを類型化すると，知的カテゴリーの通過率の高低により2つずつのクラスターが抽出された。多くの先行研究で，「記憶」に関してダウン症児は相対的に低い成績であるとされている。しかし，対象児によっては異なる様相を表すことが示唆された。個人内プロフィールの変化について，学年上昇による変化は認められなかった。今後の課題として，精神年齢を考慮して対象者数を増やすこと，幼児期や青年期以降も含め知的機能や個人内プロフィールを検討することが必要である。

Key words
ダウン症，児童期，知的機能，個人内プロフィール，縦断的研究

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
**東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター
***東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
****東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
*****東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター
******東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター